

男クラシカ経験のない私だが、結構混クラにも馬鹿がいる。まずは応援團の苜宿。下着は紫の腹巻きしか身につけてないと豪語する。その上をいく馬鹿が同じ応援團の加藤で何も身につけてないと言う。その加藤に気があるのか後藤の弁当のおかずはいつも人参の煮つけだけ。熊谷はイモの煮っころがし。金浜は昼抜き。実にわびしい。スケベは作山で見るからにいやらしい。その作山が一目おのが村野井。銀映座に制服で行って追いかえされた話しは余りにも有名。成人映画に行き「学生」といつて証明書を求められ、生徒手帳を出した馬鹿が功一。むっつりスケベの遊佐、仏壇返しの杉山、のぞきの東瀬とかなり粒が揃ってる。弟に恋人をとられて泣き寝入りした上田。柔道で鍛えたガニマタがハンデキヤップとなった。同じクラブの大森(信)は先天性ガニマタ。でもその彼が絶対の自信を持つてるのが晴山。短か過ぎて曲がることもできない。以下「君のは太い」の吉田。股ずれの和泉と続く。昨年の飢餓で多数の餓死者を出した田老出身正人。出身地千厩に東北新幹線の停車駅ができると信じてる高金。「電気も

はいってない千厩にどうしてひかり号が走れる？」と聞くと「馬で引っぱる」とまじめに答えた。岩手山麓に住み、通学のため日の出前に家を出る菊地。ましてひどいのか金田。駅までの道のりが長いため毎晩北上駅ホームに寝泊まり。同じ汽車通だった小笠原は赤字線廃止で盛岡駅。郷里の野田村でヒグマと闘って見事しとめた理枝子。他高生に「一高には相撲部があるんですか」と尋ねられた関口。得意種目が砲丸投げ・ハンマー投げ・綱引きと三拍子揃った川熊。糖尿病で長く入院してた赤塚。慢性の便秘で悩んでる君塚。かぜをひいて病院で診察してもらった時、お医者さんに男と間違えられてすっかり自信をなくした大本。がっかりするな大人になれば。「あんな切れ痔でしょう」といつて真輔をからかったイボ痔の今川。「〇以上教えられない畑中と6の次が8だと頑なに信じてる山田は共に小さい頃悩性小児麻痺。見事立ち直るかと思われた光男。でもやっぱり馬鹿は隠せない。夜尿症がまだ治らずビニールを蒲団の上に敷いて寝る川村。もっぱらおまるを使ってるのが長沢。虫歯は頭に悪いと聞いた北村はさっそく治療した。・やはりこれも関係なかった。冷え症で悩んでる大矢は便所が近い。親指に

勉強だこができてる工藤は時々19才になる。徹マンで目を真赤にした横田が勉強のしすぎと思われ、雄三がマンガの読みすぎと思われののも頭の差。弓道部長上村は8級の腕前。人のいい彼は試合出場を他の部員に譲るほど。頭痛で保健室に寝てた時、隣のベッドに女生徒が来ていやらしい思いを胸に秘めじつと息を押し殺して窒息した馬鹿勇夫。土産子で無料ライスを7杯食べた善明。そこまですらまだかわい気もあるが帰りがけにおにぎりを握らせたのは憎たらしい。ロードレースの途中で立小便して白バイにどなられた及川。「あたし秘密のダッコちゃん」と言ってるのは少女趣味の星川。でもダッコするにはちと重すぎる。それにもまして単細胞なのが沢藤。ケロヨンをまねて「おはよくん」救われない。オヤジが岩女の教師で自分はおっぱらんちような義則。言葉のきれいな大森(郁)の金森。でも「オラ」はいただけない。校内でワラゾウリをはいている唯一の女平。身の丈2mの博子。「あわを食べると大きくなるの。」と聞いた修二が羽がい締めにくれたのも最もなことだ。背の低い多田は一高の便器にねらいが定まらず・・・バッチイ。以上であるが、絶望してはいけない。この私がいる。